

1. 背景・狙い

総務省が発表した統計によると、2012年6月から7月にかけて行われたアンケートではスマートフォンの所持率が高校生1年生では59%となり、昨年2月の2倍以上となり急速に普及している。スマートフォンを所持している70%以上の少年が少なくとも1つ以上のソーシャルメディアを利用している統計もあり、写真やテキストを気軽にインターネットへ投稿できるスマートフォンの登場により、ソーシャルメディアの利用も拡大している。

2011年はFacebook, Twitterなどのソーシャルメディアが東日本大震災の直後でも繋がっていたために注目され、学生の間で話題になると共に、多くのトラブルも発生した。大学生が誹謗中傷をソーシャルメディアに書き込んだことで炎上し内定が取り消しになった事例や、アルバイト中の大学生が企業秘密について書き込んでしまうなど、インターネット上でのコミュニケーション能力や、メディアリテラシーの低さが明らかになった。

昨今、インターネットを避けて生きることは困難になっている。就職活動ではブログやソーシャルメディアのIDを履歴書に書き込む欄ができ、人事はインターネット上にある応募者の情報を調べるようになった。自ら情報発信を行い、ネット上で適切にコミュニケーションを行う力が求められている。学校教育において、大学への進学以前に、インターネットへの情報発信やソーシャルメディア上でのコミュニケーションの特徴を理解する必要がある。

本事例では、Facebookを利用して情報発信を行うことで、インターネット上でのコミュニケーションの特徴を理解し、著作権を理解した上で情報発信のスキルを磨くこと狙った講義を実施した。

2. 構成・視点

生徒が大学へ進学し、ソーシャルメディアを利用するようになった時に、安全かつ効果的にソーシャルメディアを利用できるリテラシーを身に付けるために、以下の3つの項目を軸に講義を構成した。

1. インターネット利用のルールを考える（著作権をふまえての学習や発信方法を押さえる）
2. Facebookから情報発信を行う
3. 活動について発表する

「1. インターネット利用のルールを考える」では、生徒にインターネットのリスクと可能性を伝え、携帯電話やPCからウェブサービスを使った体験を元に、安全にインターネットを利用するためのルールを考える。生徒と年齢が近い大学生が、生徒の間で流行中のウェブサービスを題材にリスクをまとめ、大学生が実際に行った体験談を元にソーシャルメディアの活用事例を紹介し、生徒が自分にひきつけて考えられる構成になっている。また、「5分でできる著作権教育」(URL: http://chosakuken.jp/example_list.html) から著作物を利用した情報発信の方法や、インターネットを利用するにあたり理解しておくべき著作権の知識を学習する。

「2. Facebookから情報発信を行う」では、事前に作成したインターネット利用のルールに則り、プロジェクト型の課題を与えてFacebookから情報発信を行う。本講義では学校行事について学外の人に伝えることを課題にした。学園祭、体育祭、修学旅行、クラブ活動などの学校行事を、写真やテキストを利用してFacebookへ投稿を行い、コメントが書き込まれた場合には、それに対して生徒が返答するなど、大学に進学した際にも必要となるソーシャルメディア上のコミュニケーションを実践した。投稿前に教員が作成したルールに則っているかを確認し、学校について理解を深めてもらうという目的を持ってFacebookへ投稿した。

「3. 活動について発表する」では、Facebookへ情報発信を行った体験を振り返り、学習した内容についてまとめて発表した。学外の人へ学校行事について伝えるために、工夫した点やリスクを避けるために特に注意した点を、パワーポイントにまとめて発表した。本発表は4,5人からなるグループで行なっており、発表のストーリーの作成、発表原稿の作成、スライドの作成、演出の作成など役割分担をしており、共同作業を通してチームワークやコラボレーションを必要としている。

本講義では生徒の学びを深めるために「生徒にとって身近な人が教えること」「ソーシャルメディアを実際に利用してみることを重視するために、大学生と企業と連携している。それぞれの役割について述べる。

・大学生の役割

現在の中学生、高校生は小学生の時から携帯電話やPCに触れているデジタルネイティブ世代であり、インターネットの利用を身近に感じている世代である。インターネットについてより学びを深めるために、世代が異なる大人ではなく、同じデジタルネイティブ世代である大学生が講義を行うことで、最新のウェブサービスの活用事例や同世代のネットトラブルについてわかりやすく説明する。大学生は生徒との交流の中で、生徒たちのインターネット利用の実態を把握でき、ネットリテラシー講座の向上に役立てている。

・企業の役割

ソーシャルメディアのリテラシーを身につけるには、座学で知識を得るだけでなく、実際に情報を発信する経験を積む必要がある。生徒がソーシャルメディアを利用する際には、コメント欄などに生徒を傷つける内容を投稿される可能性がある。本事例では生徒の安全性を担保するために学校裏サイトの監視やネットパトロールを行っている事業者と協働して行うことで、ソーシャルメディアでの投稿監視を行った。

3. 評価の観点

- ・インターネットのメリットとリスクを理解し、ワークシートに答える
- ・インターネットのリスクから、原因と対策を考える
- ・グループで議論してインターネット利用のルールを作り出す
- ・著作物と著作権について理解し、ワークシートに答える
- ・相手を意識して情報発信を行う
- ・学んだことをまとめる力

4. 指導計画・スケジュール

講義回数	予定	学びのプロセス	内容	効果
1回	ソーシャルメディア・リテラシーを学ぼう	「知る」「考える」	インターネットで可能性を広げる ネットいじめやプロフの炎上など身近なリスクや、大学生がソーシャルメディアを活用した事例からインターネットのメリットを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを自分の可能性を広げるために活用する力 ・ネットリスクを避ける力
1回	インターネット利用のルール作り	「考える」「創る」	ルールを作る 実体験を元に、インターネットを利用する際に気をつけるべきことを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを安全に利用する力 ・トラブルから原因を探り、対処する方法を考える力 ・他者の意見を聞く力
1回	著作権を学ぼう	「創る」「知る」	著作権について知る 「5分でできる著作権教育」 http://chosakuken.jp/example_list.html を利用して、著作物とインターネットの関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権について知る ・著作権を踏まえたインターネット利用方法を学ぶ
3回	ソーシャルメディアからの情報発信	「調べる」「発信する」	ソーシャルメディアで伝える・繋がる 学校行事について、読み手を意識し目的を持って情報発信を行う。写真を投稿する際に著作権や個人情報について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでコミュニケーションする力 ・伝える相手と目的を意識して、相手によりわかりやすく伝える力
1回	活動発表	「まとめる」	学習したこと・活動を伝える 先生、大学生、企業に向けて活動発表を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション力 ・活動を振り返り学びを深める力

5. 授業内容

(1) ソーシャルメディア・リテラシーを学ぼう

高校生にとって身近な大学生が、掲示板へ誹謗中傷を書き込むことによって生じた炎上や、個人情報の書き込みにより不審人物から連絡が来てしまったなどのネットリスクの事例と、大学生がソーシャルメディアを活用した事例からインターネットリテラシーを学習する。大学に進学してソーシャルメディアの利用に困らないように、リスクを踏まえた使い方を学ぶ講義になっている。

図1 授業風景



(2) インターネット利用のルール作り

生徒がインターネットを利用する中で体験したリスクをグループで共有し、「なぜリスクにあったのか?」「どうすれば、リスクを避けられたのか?」を議論し、インターネットを安全に利用するためのルールをグループごとにまとめる。グループから集まったルールをクラス全員で共有し、似ているルールについてはまとめ、クラスのインターネット利用のルールとして設定する。生徒は日々何気なく利用しているウェブサービスに対して、リスクを理解し多くの人に見られている意識を持って利用させる。

羽衣学園 × UniX



ルール



- ①個人情報の公開は慎重に
- ②公開範囲を設定する
- ③投稿前に内容を確認する
- ④あやしい情報は無視する
- ⑤不用意に個人情報を送らない

図2 講義で作成されたインターネット利用のルール

(3) 著作権を学ぼう

「5分でできる著作権教育」(URL : http://chosakuken.jp/example_list.html) の資料から、「著作物を見る・読む」「著作物を分析する」「著作物を参考に作品を作る」「著作物を参考に発展した作品を作る」「著作物を利用した作品を作る」「オリジナルの作品を作る」「著作権と産業財産権の違いを知る」「著作者に許諾をとる方法を知る」「著作権が無いものを知る」「特別活動と著作権」の項目について説明し理解させる。また、各自で別途、興味関心があるタイトルは閲覧できるようにした。インターネットを利用する上で必要となる著作権の知識について理解を深めた。

(4) ソーシャルメディアからの情報発信

生徒が作成したインターネット利用のルールに則って、グループごとに学校行事についての情報発信を行う。学外の人へ学校行事を紹介するという課題を生徒に与え、“伝える”という目的意識を持ってソーシャルメディアを利用する。生徒の顔が写っている体育祭や学園祭などの写真を掲載する場合に、作成したネット利用のルールに則って、生じうるリスクなどについて議論を行う。投稿にたいして閲覧者から書き込まれたコメントに対して生徒が返信することで、ソーシャルメディア上でのコミュニケーションも学習する。



図2 Facebookへの投稿内容

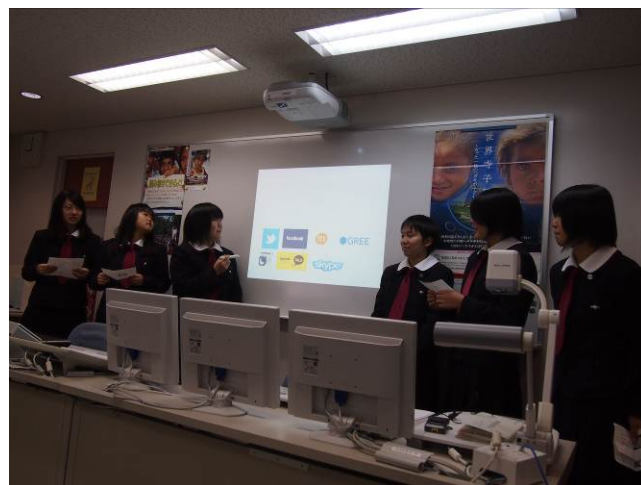
(5) 活動発表

“ソーシャルメディア・リテラシーを学ぼう”、“インターネット利用のルール作り”、“著作権を学ぼう”、“ソーシャルメディアへの情報発信”を通して学んだことを、パワーポイントにまとめてグループごとに発表する。インターネットで特にリスクだと思うことや、投稿を行う時に独自に設けたルールについて発表させた。学校行事について“伝える”という目的を持ってソーシャルメディアへ投稿する経験から、普段のインターネットの利用について考える機会になる。

(図4) 最終発表会の様子



(図5) 最終発表会の様子



6. 効果

生徒たちは今までソーシャルメディアについて習ったことがなかったようだが、今回の授業を活用してソーシャルメディアの影の部分以外に光の部分がたくさんあることを実感した。その上で自ら情報を外部に発信する交流学習の基本を育むことができた。

(ネットワーク利用で必要となる、ルール・マナー・モラルを理解し、ネットワークリテラシーも育むことができた。) そのときに今回の一番の目的である一つの著作権についてもしっかりと考えることができた。自分たちの学校生活の身近なテーマを紹介するために撮った写真が色々な意味を持ち、それを発信すると実際にコメントが返ってくる。「多くの人が見ている」という実際の体験が著作権の理解につながった。また産学連携、高大連携を取り入れたことにより教科の壁を越えた生徒たちが多く見受けられた。

7. 関係者の感想

(講義を行った大学生からの感想)

私はこの講義を通して、学生に自分の伝えたいことを伝える難しさを学びた。一度ではなかなか伝えられないことも、毎回伝えることでなんとか伝わったのではないのかと思う。生徒とのコミュニケーションや講義の進め方に気を使うことができたと思う。やはり現代の学生のほとんどがソーシャルメディアを活用しているにも関わらず、全くリスクを意識しないまま使っていることがわかった。今回の講義を通して生徒へのネットリテラシー教育の必要性を強く感じた。

(企業の担当者の感想)

学生は予想以上にインターネットを利用しており、気軽にテキストや写真を投稿している。個人情報や著作権について、普段のインターネットの利用では意識していない。友人と写っている写真や名前を気軽に投稿し、著作物を自由に編集するなど。インターネットを利用する上でのマナーを理解していないのが現状だった。本講義を通して、座学やグループワークでネットリテラシー、特に個人情報の扱いと著作権について学習し、自らインターネット利用上のルールを作成した。いつもは何も意識せず投稿していたが、授業では投稿するテキストと写真について、ルールに則っているか、個人情報や著作権にふれているかを確認した上で投稿していた。実際に SNS を利用する中で生徒は普段意識しないネットリテラシーを効果的に学習した。本講義がモデルとなり、日本全国で実践されるようになり、著作権への理解が進むと共に、インターネット社会が成熟することを期待する。